



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場取引所 大

上場会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
コード番号 3121 URL <http://www.mbkworld.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦勇 和也

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO兼財務経理部長 (氏名) 宮毛 忠相

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

TEL 03-3502-4910

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	2,723	△21.1	△290	—	△336	—	△450	—
23年3月期第3四半期	3,454	△18.6	△162	—	△228	—	△205	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △462百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 △118百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△20.30	—
23年3月期第3四半期	△9.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
24年3月期第3四半期	4,779	—	3,064	—	63.5	—	136.74	
23年3月期	—	—	—	—	—	—	—	

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 3,035百万円 23年3月期 一百万円

(注) 当社は非連結会社であったため、前期末時点の連結貸借対照表を作成しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,333	△46.2	△84	—	△147	—	△207	—	△9.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	22,615,056 株	23年3月期	22,615,056 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	412,870 株	23年3月期	15,973 株
----------	-----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	22,214,024 株	23年3月期3Q	22,599,261 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において、入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、東日本大震災による影響が残る中で、生産活動が持ち直しの動きを見せているものの、円高の影響による企業業績の落ち込みなどがあり、依然として厳しい状況にありました。先行きにつきましても、円高の進行や雇用情勢の悪化懸念等の要因があり、景気下振れのリスクが存在しております。

当社の主要な事業領域についてみると、国内のホテル・レジャー市場は、3月以降の急激な大きな落ち込みから立ち直りの傾向がみられております。国内外の金融・不動産市場は、ユーロ圏の経済危機に端を発する為替相場や世界の経済・金融情勢の不確実性から、先行きが不透明な状況にあります。また、中国経済については、不動産価格や物価の動向に留意する必要があるものの、景気は内需を中心に引き続き拡大が続くと見込まれております。

このような経済状況のもとで、当第3四半期連結累計期間の当社グループは、新規投資案件の発掘のほか、新たに子会社とした旭工業株式会社の経営基盤の構築、並びに一時落ち込んだオペレーション事業の業績の立て直しなどに注力してまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、目立った投資回収がなかったことや、当期前半の来客落ち込みの影響が大きく、売上高2,723百万円(前年同期比21.1%減)となりました。

営業利益及び経常利益については、企業投資及び不動産投資の回収活動が振るわず、また営業収入の落ち込みの影響により、営業損失290百万円(前年同期は営業損失162百万円)、経常損失336百万円(前年同期は経常損失228百万円)となりました。

さらに、特別利益として新株予約権戻入益13百万円、特別損失として店舗撤退に伴う事業整理損46百万円、固定資産の減損31百万円などがあり、四半期純損失450百万円(前年同期は四半期純損失205百万円)となりました。

報告セグメントごとの業績は、次の通りであります。(注)1. 2.

(マーチャント・バンキング事業)

当社グループは、当事業部門におきまして、主に日本及び中国の企業及び不動産向けの投資事業、並びにアドバイザー事業を営んでおります。

当第3四半期連結累計期間は、不動産賃貸による収益30百万円のほか、目立った投資回収益などがなく、売上高132百万円(前年同期比84.8%減)、セグメント損失23百万円(前年同期はセグメント利益83百万円)となりました。

なお、かねてより事業化のための調査活動に取り組んでおります太陽光発電関連事業につきましては、業務提携先であるSinosol AG社(ドイツ)、及び京セラコミュニケーションシステム株式会社(京セラグループ)などの協力のもと、当社運営のオートキャンプ場に併設した30KW規模のテストプラント「水上(みなかみ)太陽光発電所」(群馬県利根郡)が平成23年12月15日付で本格稼働を開始いたしました。すでに専門家、報道機関など多くの方々にご見学いただいたほか、積雪が多い寒冷地における貴重な実験プラントとしてデータ蓄積を始めております。

(オペレーション事業)

当社グループは、当事業部門におきまして、ビジネスホテル等の宿泊施設の運営、ボウリング場の運営、飲食事業及び公営施設の運営受託などを行っております。

当第3四半期連結累計期間は、震災による影響のほか、3月以降開業した新規店舗が、開業関係費用や販促費等の経費負担などにより期間損失を計上していることなどから、当事業部門の業績は低迷し、売上高2,430百万円(前年同期比6.0%減)、セグメント損失125百万円(前年同期はセグメント利益36百万円)となりました。

また、事業所の選択と集中の観点から、「AMPLEX坂東」(茨城県坂東市、アミューズメント施設)、「観光旅館水月花」(福井県三方上中郡、旅館)及び「Breeze of Bay 京都四条河原町丸井店」(京都府京都市、レストラン)の計3店舗については、いずれも当第3四半期間において、他の事業者に運営を引き継ぎ、当社は事業撤退いたしました。

(マニュファクチュアリング事業)

当社グループは、第2四半期末より、旭工業株式会社(東京都青梅市)を新たに連結子会社としたことに伴い、工業機械製造を主とするマニュファクチュアリング事業を、新たな報告セグメントとして定めております。

当第3四半期連結累計期間は、受注生産してまいりました製品の検収が予定通り完了し、売上高161百万円、セグメント利益23百万円となりました。

旭工業株式会社は、全自動連続殺菌冷却装置「ネットスチーマー」などを主力製品とし、長年にわたり加工食品会社等に納入実績を有する青梅市地場の優良製造企業です。当社による取得以降、経営者の交代による重要な影響はなく、当社の新規受注、生産活動ともに安定して推移しております。今後、当社グループの経営資源を最大限に活用し、国内外の営業基盤、信用力、経営管理機能を強化することにより、引き続き同社の事業成長を図ってまいります。

- (注) 1. マニュファクチュアリング事業の追加につきましては、後記「3. 四半期連結財務諸表(4)セグメント情報等」に記載の通りです。
2. 報告セグメントごとの業績は、内部取引控除前の金額を表示しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社は、第2四半期末より連結会社となったため、以下の内容につきましては、当第3四半期連結会計期間末の連結貸借対照表と、前事業年度末の個別貸借対照表を比較して記載しております。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の減少925百万円、受取手形及び売掛金の増加136百万円、預け金の減少185百万円、有形固定資産の増加230百万円、のれんの増加138百万円等により、前期末比517百万円減の4,779百万円となりました。なお、保有目的の変更により、販売用不動産71百万円を、流動資産から固定資産に振替えております。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、短期借入金の増加100百万円等により、前期末比104百万円増の1,715百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、四半期純損失450百万円を計上したほか、配当による剰余金の減少90百万円、自己株式の取得による減少60百万円等により、前期末比622百万円減の3,064百万円となり、自己資本比率は63.5%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年11月8日付当社「平成24年3月期 第2四半期決算短信」に記載の業績予想から変更ありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1 四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

(会計処理基準に関する事項)

a たな卸資産の評価方法

新たに連結の範囲に含めた旭工業株式会社のたな卸資産（主に製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）については、総平均法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

b 退職給付引当金

新たに連結の範囲に含めた旭工業株式会社は、従業員の退職給付制度を定めており、これに伴い、当該退職給付に備えるため、期末要支給額を退職給付債務として計上しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,145,116
受取手形及び売掛金	191,135
営業投資有価証券	620,966
商品及び製品	59,123
仕掛品	14,432
原材料及び貯蔵品	41,927
販売用不動産	12,800
預け金	192,326
その他	107,430
貸倒引当金	△172
流動資産合計	2,385,087
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	801,577
土地	1,035,058
その他(純額)	103,993
減損損失累計額	△210,696
有形固定資産合計	1,729,933
無形固定資産	
のれん	138,773
その他	11,465
無形固定資産合計	150,239
投資その他の資産	
投資有価証券	71,304
敷金及び保証金	268,513
その他	178,392
貸倒引当金	△3,629
投資その他の資産合計	514,581
固定資産合計	2,394,754
資産合計	4,779,841

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成23年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	155,425
短期借入金	100,000
1年内返済予定の長期借入金	105,000
未払費用	163,378
未払法人税等	23,597
その他	265,285
流動負債合計	812,687
固定負債	
社債	600,000
長期預り敷金保証金	213,289
退職給付引当金	59,258
その他	29,888
固定負債合計	902,436
負債合計	1,715,123
純資産の部	
株主資本	
資本金	2,765,732
資本剰余金	20,849
利益剰余金	483,391
自己株式	△83,258
株主資本合計	3,186,715
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△150,798
その他の包括利益累計額合計	△150,798
新株予約権	28,800
純資産合計	3,064,717
負債純資産合計	4,779,841

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	3,454,017	2,723,651
売上原価	1,498,628	1,018,230
売上総利益	1,955,389	1,705,421
販売費及び一般管理費	2,118,364	1,996,108
営業損失(△)	△162,974	△290,686
営業外収益		
受取利息	2,076	1,800
未払配当金除斥益	1,171	234
その他	4,034	5,400
営業外収益合計	7,282	7,435
営業外費用		
支払利息	48,454	1,986
社債利息	10,900	10,900
為替差損	11,480	39,521
その他	2,367	694
営業外費用合計	73,202	53,103
経常損失(△)	△228,894	△336,354
特別利益		
新株予約権戻入益	22,760	13,670
過年度固定資産税還付金	13,148	—
その他	15,888	1,938
特別利益合計	51,797	15,609
特別損失		
和解金	16,000	—
事業整理損	—	46,859
固定資産除却損	—	1,011
減損損失	—	31,357
関係会社株式評価損	8,503	—
その他	2,775	—
特別損失合計	27,279	79,228
税金等調整前四半期純損失(△)	△204,376	△399,973
法人税、住民税及び事業税	3,894	22,582
法人税等調整額	244	28,375
法人税等合計	4,138	50,957
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△208,514	△450,931
少数株主損失(△)	△2,716	—
四半期純損失(△)	△205,798	△450,931

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△208,514	△450,931
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91,826	△11,878
為替換算調整勘定	△2,226	—
その他の包括利益合計	89,600	△11,878
四半期包括利益	△118,914	△462,809
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△124,505	△462,809
少数株主に係る四半期包括利益	5,590	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計 (千円)	調整額 (注) 1.	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2.
	マーチャント・ バンキング事業	オペレーション 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	870,121	2,583,896	3,454,017	—	3,454,017
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	1,322	1,322	△1,322	—
計	870,121	2,585,218	3,455,339	△1,322	3,454,017
セグメント利益又は損 失(△)	83,030	36,957	119,988	△282,962	△162,974

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△282,962千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引であり、主に一般管理費によりなっております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計 (千円)	調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	マーチャ ント・バン キング事 業	オペレー ション 事業	マニフ ャクチュ アリング 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	132,124	2,430,115	161,411	2,723,651	—	2,723,651
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	—	—	—	—	—
計	132,124	2,430,115	161,411	2,723,651	—	2,723,651
セグメント利益又は損 失(△)	△23,548	△125,882	23,842	△125,588	△165,098	△290,686

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△165,098千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費によりなっております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

第2四半期連結会計期間より、旭工業株式会社を新たに連結子会社としたことに伴い、当該連結子会社が営む工業機械の製造及び販売に関する事業を、マニフャクチュアリング事業として、新たに報告セグメントの区分に追加することといたしました。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「オペレーション事業」セグメントにおいて、群馬県吾妻郡長野原町の「ヴィラ北軽井沢エルウイング」において業績低迷により同事業所に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失31,357千円として特別損失に計上しました

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。